



# 南相馬歴史探訪マップ

～知られざる南相馬を訪ねる～



一般社団法人 南相馬観光協会

【原町陸軍飛行場跡】南相馬市原町区馬場字原

昭和 15 年から 20 年にかけて雲雀ヶ原（現在の南相馬市原町区馬場・大木戸・上太田・本陣前一～三丁目辺）に陸軍飛行要員訓練所があり、全国各地から飛行訓練兵が集まり、その多くは特攻隊として戦場に向け出発しました。現在の飛行場跡は、農地、宅地化し面影はほとんど無くなりましたが、格納庫跡のコンクリート部分と飛行場正門跡が残っており当時の痕跡を見ることができます。



陸軍飛行場正門

雲雀ヶ原神社の石碑に残る米艦載機の銃弾跡



陸軍飛行場格納庫の礎石

【原町無線塔跡】南相馬市原町区高見町 2-30-1 (道の駅南相馬)

「原町無線塔」は大正 10 年、旧原町に開局した磐城無線電信局原町送信所の主塔として建設され、鉄筋コンクリート造りで 200m の高さは当時、東洋一を誇り昭和 57 年に解体されるまで地域のシンボルとして市民に愛されました。大正 12 年には関東大震災の第一報をアメリカに発信し、世界中から日本に支援が寄せられるきっかけとなりました。技術が進歩しその役割を終えた無線塔は解体されましたが、無線塔の基礎部分に花時計が設置されています。また、道の駅南相馬の駐車場から縮尺 10 分の 1 の「憶・原町無線塔」をご覧になれます。



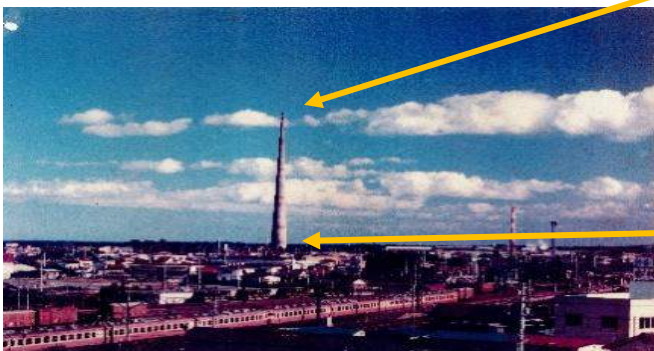
無線塔頂部の滑車 (南相馬市博物館前庭)



憶・原町無線塔

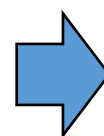
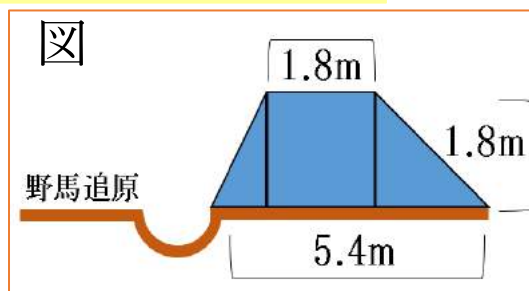


無線塔跡花時計



【野馬土手】南相馬市原町区牛来字出口 194 (南相馬市博物館)

江戸時代の寛文 6 年 (1666)、中村藩 3 代藩主相馬忠胤が、牧に放牧していた野生馬 (野馬) の散逸と野馬による農作物の被害を防ぐために、幅約 5.4m、高さ約 2m の土手を築かせました。写真の野馬土手は南相馬市博物館に隣接しており市民の散策コースとなっております。



【小高銀砂工場跡】南相馬市小高区東町1丁目

小高銀砂工場は、明治から昭和初期にかけて幅広く活躍した政治家・実業家半谷清壽（はんがいせいじゅ）が大正3年に創業した珪砂事業です。小高産の珪砂は小高白銀砂ともいわれ、「ピリケン印珪砂粉」としてガラス原料や鋳物砂として出荷されました。また、小高産の珪砂は安定した高品位なものであるところからセメントの強度試験用として、国から「相馬標準砂」としての指定を受け、セメント・建設業界などに出荷されました。その後、輸入品の影響もあって昭和51年に精製工場は閉鎖されましたが、現在も小高区のまちなかに工場の門が残っております。



小高銀砂工場（昭和22年頃）



小高銀砂工場看板

銀砂は珪砂とい  
うガラス質の砂  
です！

【高島家コンクリート蔵】南相馬市小高区上町1丁目

高島家住宅は昭和初期に建てられた、小高川から小高駅に続く町並みの西の入り口にある、四角四面の特徴的なコンクリート蔵です。1階は倉庫、2階の部屋は天井や窓が洋風で、屋上は野馬追2日目の夜に行われる「火の祭」を見る際に活用されていました。



階段踊り場  
壁の紋章  
(上)  
高島家コン  
クリート蔵 (左)

【重胤公御壇】南相馬市原町区上太田字前田149

旧相馬領主第11代重胤は永享8年(1436)11月、家督を継いだが大不慮の難病にかかり、在世わずか4年にして、封を嫡子高胤に譲りました。病が家臣にうつらないように五台山(原町区馬場)の山奥に退隠して養病に努めましたが、養病の甲斐なくその生涯を終えました。重胤の遺骸は、五台山から岩屋寺まで葬送され、当寺の後方の丘陵の横穴に入龕(にゆうがん)し、後にいまの場所に埋葬されました。



【桜平山公園】南相馬市鹿島区江垂桜平

春には桜平山全体にたくさんの桜が咲き乱れるほか、秋にはコキアやコスモスが辺り一面を鮮やかに彩ります。



【立石】南相馬市鹿島区上析窪県道268号線

真野ダムの手前の真野川上流にあり、川沿いに高さ12mの巨大な石柱が目に入ります。四季を通して周囲の自然に溶け込み川の流れと景観を満喫出来ます。



【星神社】南相馬市小高区行津宮下58

紅葉だけでなく神社の境内には、市の指定天然記念物「行津の大杉」があります。てっぺんが見えないくらい大きく存在感たっぷりの大木です。



【蛭沢溜池】南相馬市原町区零蛭沢

白鳥の飛来地として知られる蛭沢溜池では、多い時で100羽以上の白鳥が確認できます。そのほかオナガガモやカルガモなど、多くの鳥が水辺で賑わっております。



# 南相馬市全体図



・鹿島区コース例（鹿島駅スタート）

鹿島駅＝立石＝セデッテかしま＝桜平山公園＝鹿島駅 移動総距離 約 32 k m

・原町区コース例（道の駅南相馬スタート）

道の駅南相馬（原町無線塔跡）＝夜の森公園＝原町陸軍飛行場跡＝野馬土手（南相馬市博物館）＝重胤公御壇（岩屋寺）＝蛭沢溜池＝道の駅南相馬 移動総距離 約 20 k m

・小高区コース例（小高駅スタート）

小高駅＝小高銀砂工場＝高島家コンクリート蔵＝大悲山の石仏＝星神社＝小高駅 移動総距離 約 16 k m